

●2色刷り特集●

“ご出現の聖地”で示された
人類への預言メッセージとは？

聖母マリア出現 奇跡の巡礼

東欧の小さな村メジュゴリエ。
そこには今も毎日、
聖母マリアを「見る」幻視者たちがいる。
聖母は彼らを介して、
人類への重要なメッセージを
伝えつづけているという。
見えざる手に導かれるようにして
欧州各地の聖地をめぐる著者は、
最後にメジュゴリエを訪問し、
そこで驚くべき事実を知ることになった。

文・写真＝菊谷泰明

聖地巡礼への誘い

不思議な声に導かれて
聖地イスラエルへ

私はキリスト教徒ではないし、イエスや聖母マリアについてもよく知らなかった。したがって、聖母の出現という出来事についても、特別な興味はも

っていないかった。

しかし、ある日突然、イエス・キリストや聖母マリアとの出会いが訪れた。

1991年8月、奈良県のある神社に行き、祈っていたときのこと。突然、「イスラエルに行きたい」という「思い」が湧いてきた。それは自分の

思いではなく、外から聞こえたような感じだった。

「え？ なぜイスラエルに行かなければならないのだろうか？」

私は首をひねった。しかし思いきつて、この不思議な導きに従ってみることにした。

そして、その3か月後、イスラエルへと旅立った。現地では、ナザレヤカペナウムなどイエスゆかりの土地をめぐり、イエスに意識を向けた。

エルサレムには「悲しみの道」と呼ばれるルートがある。これは、死刑判決を受けたイエスが、自ら十字架をかついで歩いた道だ。その道をたどり、聖墳墓教会にあるイエスの墓で祈りを捧げた。

このことをきっかけにして、イエス・キリストとの結びつきが深められたように思う。

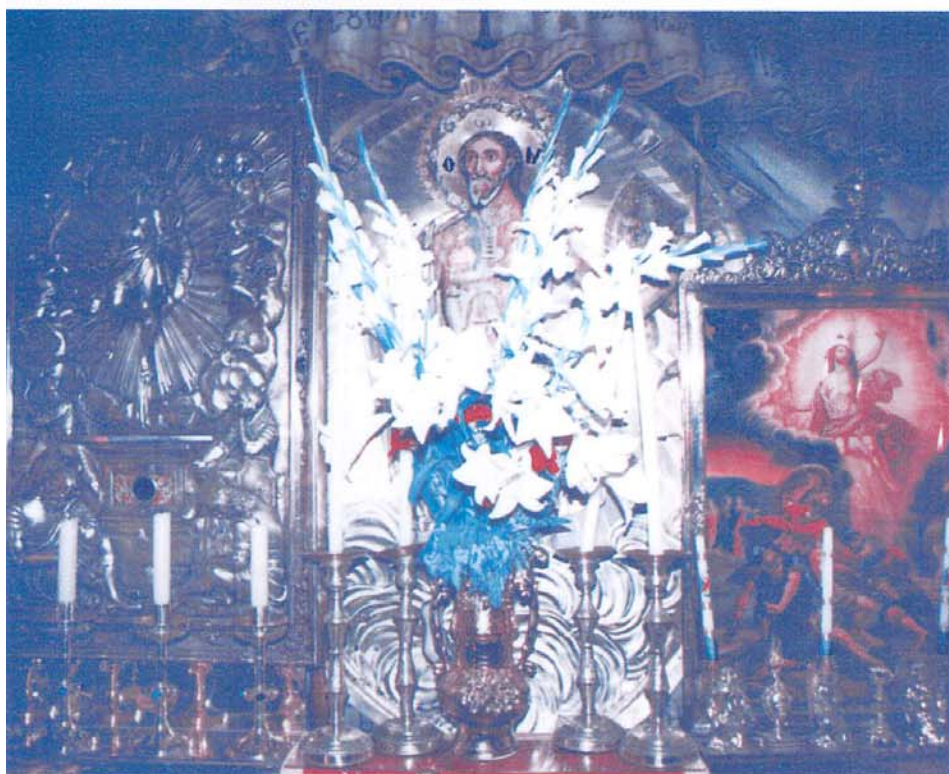
その旅から戻って数か月たったとき、私は唐突に、トルコ絨毯を扱う仕事をしてみたくなった。実はイスラエルからの帰途、トルコのイスタンブールに立ち寄り、手織りのトルコ絨毯が有名であることを知った。それを思いだし、絨毯を扱ってみようと思いついたのだ。衝動的なものだったが、私はふたたびこの「思い」に乗ってみることにした。そして、イスタンブールへ旅立った。

現地で購入契約をした後、視察のために絨毯の産地を訪れると、すぐ近くにトロイ遺跡があった。せっかくなので遺跡の観光をすると、売店にたまたま日本語のガイドブックがあった。

それによれば、トロイから300キロほど南に下ったエフェesosという町に、「ヨハネの福音書」を記した聖ヨ



↑オリーブ山から聖地エルサレムを望む。中央に見える建物は「岩のドーム」。



↑エルサレムにある聖墳墓教会の内部。イエスが磔刑に処されたゴルゴタの丘は、ここであったとされる。



↑エフェソスにある聖ヨハネの墓。聖ヨハネは12使徒のひとりで、福音書を記した。



↑聖母マリアが晩年を過ごしたとされる家の跡。祭壇が設けられている。

ハネの墓と、聖母マリアが晩年を過ごした家の跡があるという。

私は驚いた。つい数か月前にイエスの墓を訪れたばかりなのに、今度は12使徒のひとり「聖ヨハネの墓」や「聖母マリアの家」があるとは。

この流れに興味を感じた私はエフェソスへ向かった。聖母マリアの家の跡では、2000年前にこの地で暮らしていた聖母に意識を向けた。すると、それまでは歴史的な知識でしかなかった聖母が、より身近でリアルな存在として感じられるようになった。

ファティマとルルドへ誘う シンクロニシティ

エフェソスへの旅から2年ほどが過ぎた1994年の暮れのこと。聖母が出現したファティマとルルドを巡礼するツアーに参加しないか、と知人に誘われた。

以前の旅で、イスラエル巡礼を経験

絨毯を買いにトルコへ来たはずだったが、この旅の真の目的は、聖母マリアの家や聖ヨハネの墓を訪れることだったのかもしれない。私はそう思った。

どうしようかと迷っていると、不思議な出来事が起きた。

してはいたが、聖母出現という出来事についてはよく知らないし、あまり関心もなかった。そのときはすぐ断った。ところが、日がたつにつれて、ファティマとルルドへの旅が、イスラエルやエフェソスへの旅と関係があるように感じられてきた。

しかし、行くとするば10日間ほど会社を休まなければならない。

ある図書館で調べものをしていたときのことだ。息抜きに雑誌のコーナーへ行き、なにげなくポルトガルのガイドブックを手にとった。すると、アンケート用の葉書が挟まれていたためにあるページがぱっと開いた。そのページには、「ファティマ」という見出しが躍っていた。

普通、図書館の本にアンケート用の葉書が挟まれていることはない。それがよりによって、ファティマのページ

にあったのだ。単なる偶然とは思えなかった。

このとき、ファティマとルルドへの旅に出ることを決めた。

その出来事からしばらくして、あるセミナーに参加した。そのなかで、サンチャゴ・デ・コンポステーラという町の話が出た。そこはスペインの西の果てに位置するが、古くからある巡礼の旅の終点として有名だという。

「ぜひこの巡礼路を旅してください。その途中では、たぶん何か起きますよ」と、セミナーの講師は語った。

その言葉を聞いたとき、どうしてもサンチャゴに行かなければならないと強く感じ、ファティマとルルドをめぐる旅のルートに入れることにした。

そして、旅のおおまかなルートをイメージしてみた。

まず、5月13日にポルトガルのファティマで行われる祭典に参加し、そこから北上してスペインのサンチャゴに行く。次に、フランスのルルドを訪れる。その後、イタリアのパチカンにある聖ペテロの墓に参り、最後はエジプトの大ピラミッドを目指す。

約2か月かけて、5か国をまわる巡礼のひとり旅だ。この旅を決意するまでに起きた一連の出来事をふり返ると、そこには大きな意味があるように感じられた。

聖地ファティマと幻視者ルシア

1917年、牧童の前に 聖母マリアが出現する

ポルトガルのファティマでは、毎年5月13日に、聖母の出現を記念する祭典が行われる。ファティマの聖母出現とは、次のようなものだ。

1917年5月13日のことである。3人の牧童——ジャシタ（7歳）、フランシスコ（9歳）の兄妹と、その従姉ルシア（10歳）——がコーワ・ダ・イリアと呼ばれる草地で羊の守りをしてると、稲妻のような光が差し、光輝に包まれた美しい女性が現れた。

女性は子どもたちに「天国から来た」といい、毎月13日に続けて6回、この時間、この場所に来るよう頼んだ。そして、3人は今後さまざまな苦しみを受けるが、神様が守ってくださいと伝え、合掌していた手を開いた。すると、3人の上に強烈な光線が放たれた。

それから毎月、女性は現れ、子どもたちと言葉を交わし、メッセージを伝えた。この噂は広まり、多くの群衆がつめかけた。その数は回を追うごとに増え、出現の最後の日となる10月13日には、コーワ・ダ・イリアは数万人の

人々で埋めつくされた。

この日、女性は「ロザリオの聖母」という名前を明かし、「人々がロザリオの祈りを唱え、これ以上、神様に背かないように」という希望を伝えた。

そして、その後、「太陽の奇跡」が起きた。太陽が幻想的な色を放ち、ジグザグに揺れ動くなどの驚異的な現象が10分ほど続いた。その様子を、そこにいた数万人の人々が見たのだ。

ファティマの幻視者 ルシアがいる修道院へ

1995年5月11日、私はポルトガルの首都リスボンに降り立ち、ファティマへ行く長距離バスに乗った。

リスボンからファティマまでは2〜3時間のはずだ。途中のバスターミナルで、運転手が「ファティマ、ファティマ」と叫ぶのを聞いたとき、私は「そう、このバスはファティマ行きだぞ」と思っていた。

しかし、実はそこがまさにファティマだった。そう気づいたのは、バスがかなりの距離を走ってからだだった。

地図を見ながらバスの走行ルートを確認すると、次に停車するのはコイン



↑1917年5月13日、ファティマで聖母の出現を受けた3人の牧童。左から順に、ルシア、フランシスコ、ジャシタ。

←ファティマの聖母像。出現した場所に置かれている。



ブラという町のようだった。それで、コインブラで降り、ファティマへ引き返すことにした。

そう決めたとき、「コインブラという町の名を聞いたことがある」という「思い」がふっと湧いてきた。

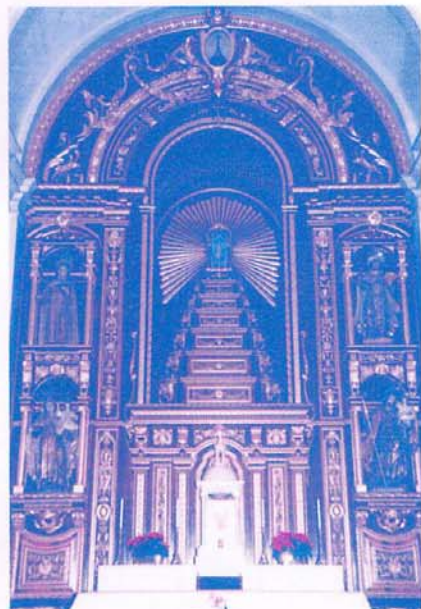
何かの本でちらりと見た程度だったが、その記憶が鮮明に甦ってきた。

コインブラは、ファティマで聖母を見たルシアさんが暮らしている修道院のある町だった。それに気づいた瞬間、修道院を訪ねてみようと思いついた。

しかし、私は、ルシアさんのいる修道院の名前も住所も知らなかった。そこでタクシー乗り場に行き、修道院について何人もの運転手に尋ねてみると、たったひとりだけが知っていた。彼は私を、町の中心から少し離れた場所にある古い建物へと連れていった。

ここが本当に修道院なのか？ そう思い、建物の前で立ち往生していると、運転手が扉の横にあるボタンを押してくれた。すると、黒い修道服に身を包んだ美しい修道女が姿を現し、私を招き入れ、礼拝堂へと案内してくれた。

ルシアさんに会えるか尋ねると、彼女は静かにほほえみ、首を軽く横に振った。ルシアさんの年齢を聞くと、88



歳とのことだった。

彼女が礼拝堂の扉を開くと、真正面に美しい黄金色をした祭壇が現れた。私は思わず、その迫力と美しさに息をのんだ。私は祭壇の前へ進み、この旅に導かれたことへの感謝を述べ、美り多い旅となるように祈りを捧げた。

聖母の出現地をめぐる巡礼の旅は、思いもよらず、幻視者ルシアさんが暮らす修道院で祈りを捧げるといふ、不思議な流れで始まった。

ファティマで感じた 数十万人の祈りの力

翌5月12日、私はファティマに引き返した。まだ緑が多く残る、のどかで美しい村は、奇跡が起きた当時の面影を残しているように感じられた。

大聖堂のある広場に行くことと礼拝堂があり、そこに聖母像が置かれていた。まさにここが、聖母出現が起きた聖地



であった。

夕方になると、大勢の人々が風よけのついたろうそくを持って、広場に集まってきた。そして、ライトアップされた大聖堂に向かって列をつくり、ゆっくりと行進した。広場はろうそくの炎と聖なる祈りの歌声で満ちていた。

それは、イエス・キリストの母である聖母を心から慕い、そのメッセージに添えて捧げる聖なる祈りであった。

多くの人々が心を合わせて一心に祈り、歌う姿を見ながら、私の心は幸せに満たされていた。

今、世界各地で戦争や紛争が多発しているが、その一方で、こんなに多くの人々によって、「平和の祈り」のエネルギーが発せられている場所があるのだ。それは世界にとって、大きな癒しの力になっているはずだ。

翌5月13日は、いよいよ祭典の日だ。ミサが行われる大聖堂前の広場は、人



↑(上) シスター・ルシアが暮らしていた修道院の祭壇。荘厳な美しさを感じられる。(下) シスター・ルシアは2005年2月13日、97歳で亡くなった。

←ファティマの祭典に集まった人々。数十万人が訪れることもあるという。

の海と化していた。広大な広場の隅から隅まで人、人、人……。この祭典には数十万人の人が集まるといわれる。その人々が広場を埋めつくし、身動きもできないほどになっていた。そして、敬虔な祈りのうちに祭典が終了した。私はこの祭典に参加できたことを心から嬉しく思った。

イエス像を抱く女性との出会い

聖ヤコブゆかりの地から 聖母出現の地ルルドへ

ファティマの祭典の翌日、私はスペインの聖地サンチャゴ・デ・コンポステーラに向けて移動した。

サンチャゴという地名は、12使徒の聖ヤコブ（サンチャゴ）に由来する。

聖ヤコブは、ヘロデ王の迫害を受け、エルサレムで首をはねられたが、その遺骸は海路を経て、スペインまで運ばれた。そして、9世紀にサンチャゴ・デ・コンポステーラで、その墓が発見されたのである。

その後、サンチャゴは巡礼地となった。多いときには、ヨーロッパ中から年間50万人もの人々が訪れたという。

現在、サンチャゴへの巡礼路は世界遺産に登録され、日本の熊野古道と姉妹巡礼路となっている。

私はサンチャゴの大聖堂にある聖ヤコブの墓で祈りを捧げた後、約800キロの道のりの巡礼路を10日ほどかけてめぐった。

サンチャゴの巡礼路の近くには、日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルが生まれ育ったザビエル城がある。日本人としては、訪ねてみたくなるスポットのひとつだ。私はここ

にも立ち寄った。実は、この城を訪れて以来、旅の途中で何度も「ザビエル」という名の人にめぐりあった。もしかしたら、この旅はザビエルの霊が守護してくれたのかもかもしれない、今も思っている。

こうしてサンチャゴ巡礼を終えると、ピレネー山脈を越えて、聖女ベルナデッタが聖母出現を受けた、フランスのルルドへ向かった。

ルルドに着くと、さっそく聖堂で祈りを捧げ、水をいただいた。翌日、ミサにあずかり、水を汲むと、街へ戻り、目についたレストランに入った。すると、隣のテーブルに座っていた中年の女性が声をかけてきた。彼女は赤ちゃんを抱く

↑聖ヤコブを意味する「サンチャゴ」の大聖堂。ヨーロッパ各地から巡礼者が訪れる。

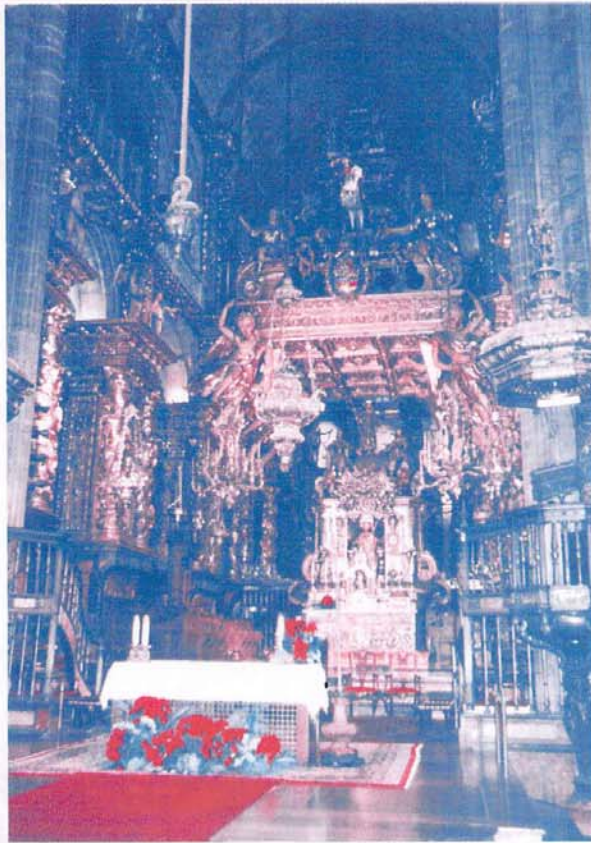


ように、高さ30センチほどのイエス像を抱えていた。「どこから来たんですか？」という問いかけに、簡単に旅のルートを説明した。すると彼女は、フランスではルルド以外でも聖母出現が起きていることを教えてくれ、次々と聖地や教会の名前をあげていった。

そして「これをあげましょう。あなたを守ってくれるし、癒してもくれますよ」と、楕円形のメダイを取り出した。さらに「これも」と、次々に取りだされた品物を受け取り、テーブルに置いていくと、いつのまにか7個のメダイ、ロザリオのリング、ハンカチ、《絶えざる御助けの聖母》の小さなアイコンなど、あわせて12個にもなった。

実は、この日は私の誕生日だった。「誕生日に、こんなにいろんなお守りをプレゼントしていただき、幸せです」とお礼をいうと、彼女は「イエスがあるなかにいます。洞窟へ行ってルルドの浴槽につかり、水を飲んで体と心を清め、癒してもらいなさい」といった。そして、「ついてきてください」と、私を導いた。

彼女に導かれるまま歩いていくと、聖母が出現したマサビエル洞窟の近く



↑(上) サンチャゴの大聖堂の祭壇。ここで人々が祈りを捧げる。(中) 聖母出現の地として有名なルルドの大聖堂。世界中から多くの巡礼者が訪れる。(下) ルルドの洞窟。聖母が出現したまさにその場所に、像が置かれている。

にある建物の前についた。そこは、ルルドの水のバスにつかり、神の愛をいただく洗礼(のしるし)の場所だった。すでに男性たちが列をつくっており、私もそこに並んだ。

ルルドの水で清めていただいて、生まれ変わるのに、誕生日である今日以上にふさわしい日はない。私はこの偶然に深く驚いた。

しばらく待っていると、順番がきた。私は裸になって腰布を巻き、バスの中央に立って祈りを捧げ、マリア像に口づけをした後、全身を水に浸し、水をいただいた。

私を案内してくれた女性の名は、モニクさんといった。私たちは、翌日も会う約束をした。

聖地ルルドで遭遇した ファティマの奇跡

翌日、約束どおり同じレストランで待っていると、モニクさんが12時すぎに現れた。そして、聖母などが描かれた、紐のついた小さな布を私の前に置いた。これは「スカプリオ」というもので、メダルと同じように霊的な力があるので、お守りとして身につけるといいとのことだった。

食事を終えると、ルルドの洞窟から少し離れたベタラムという聖地につれていってくれた。

そこから戻ってしばらくすると、モニクさんは「イエスがあなたに『カルバリに行きなさい』といっています」

という。カルバリとは、イエスが十字架を背負って歩いた「悲しみの道」を模してつくられた巡礼路(十字架の道)のことだ。各地の教会などにつくられているものだ。

カルバリの入り口から少し歩くと、20〜30人のスペイン人グループが、声を合わせて祈っていた。彼らが道をふさぐような形になっていたため、私は祈りを聞きながら、一緒に進んでいくことにした。

順路の終わりにさしかかったとき、私の後ろにいた人が、突然声をあげて前に走りだし、太陽を指さしながら、「奇跡だ! ファティマ!」と大きな声で叫んだ。太陽がファティマの奇跡のように動いているというのだ。

まわりにいた人たちは騒然となり、いっせいに太陽を見あげた。そして、驚きの声をあげ、口々に叫び、大騒ぎを始めた。なかには泣き叫んでいる女性もいた。何かの奇跡が見えて、驚いている様子だった。

私が太陽を見あげてカメラを向けると、男性が私に向かって、「奇跡の写真を撮りなさい!」と叫んだ。太陽をしっかりと見ることはできたが、特別な動きや変化はわからなかった。

しばらくすると、騒ぎは次第に収まっていった。私は皆が捧げる祈りの声を聞きながら、その場を離れ、丘を下った。私は、ルルドで「ファティマの奇跡」という出来事に遭遇したことに、心から驚いた。

聖母の出現と導きを受けた聖女たち

生きているように美しい
聖女ベルナデッタの遺体

ルルドでファティマの奇跡に遭遇した翌日も、モニクさんに会い、話を聞くことができた。

モニクさんによれば、聖女ベルナデッタは22歳で修道女となり、13年後に亡くなったが、その遺体は腐敗することなく、ヌヴェールという町の修道院に、生前の姿のまま保存されているという。そして、「ヌヴェールに行くなら、ペルヴォアザンとパレ・ル・モニアルの聖地にも行ったほうがいいで

すね」と、つけ加えた。

ルルドの次はイタリアに行く予定だったが、旅の不思議な流れに任せようと決め、彼女が教えてくれた聖地を訪ねることにした。そして、まずは聖女ベルナデッタの遺体があるという、ヌヴェールのサン・ジルダール修道院へ向かった。

サン・ジルダール修道院のチャペルに入ると、修道服に身を包み、両手を胸の前で祈るように組んだベルナデッタの遺体が、ガラスケースの中に横たえられていた。その姿は、まるで生きているように清らかで美しく、彼女の

上に注がれている限りない恩寵を感じずにはいられなかった。

翌日は、パレ・ル・モニアルへ行った。1673年、マルガリタ・マリアという修道女のもとにイエス・キリストが出現し、その「聖心」を見せるという出来事が、この修道院で起きた。聖心とは、イエス・キリストの人類に対する愛の象徴である「聖なる心」のことだ。その聖心は愛の炎で輝き、茨の冠をつけ、槍で突かれたあとがあり、その上には十字架が立つというかたちで表されている。

私はここでも祈りを捧げ、次の目的

地であるペルヴォアザンに向かった。

ふたりの女性に起きた
聖母の出現と奇跡

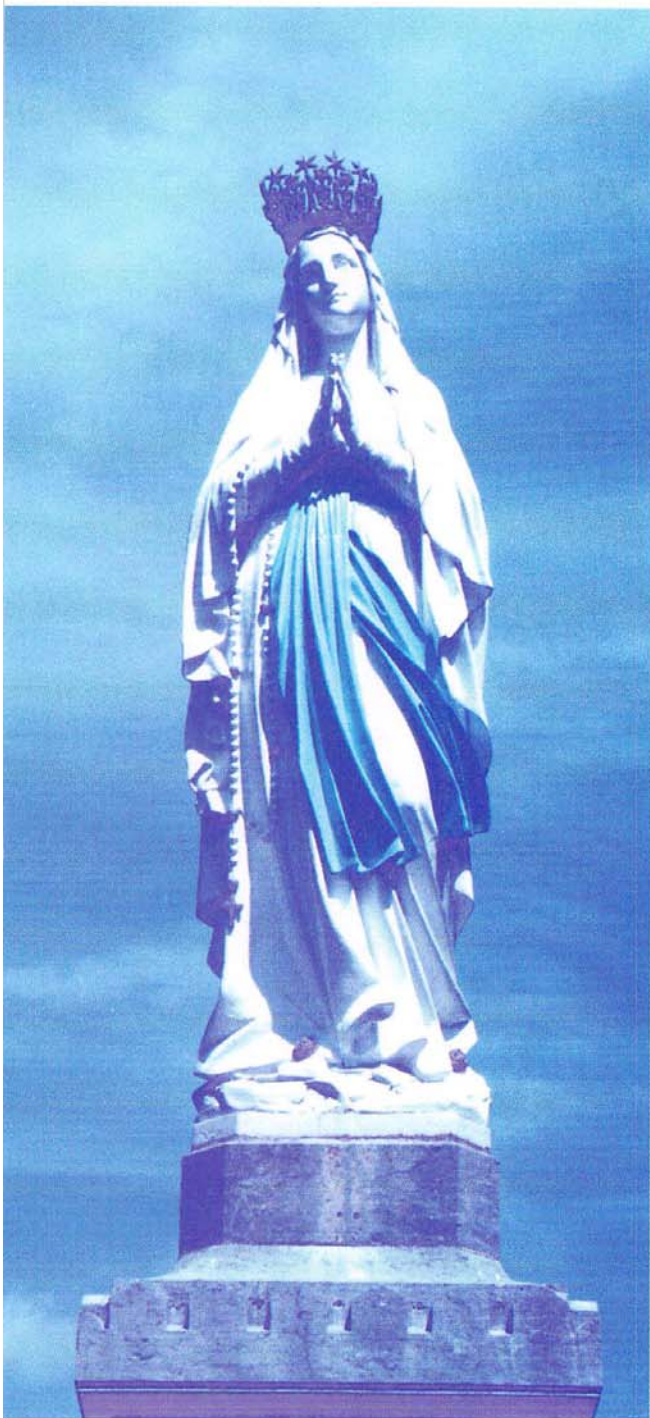
モニクさんによれば、ペルヴォアザンは非常に重要な聖地だという。

ところが、聖母出現とかかわりがあるという修道院に行ってみたが、だれもない。しかたなくホテルに戻り、休むことにした。

部屋でくつろいでいると、1匹の蜂が、何度も何度も窓ガラスにぶつかってきた。その蜂の奇妙な行動を見ているうちに「今、修道院にだれがいるかもしれない」という「思い」が浮かんだ。そこでベッドから出て、修道院に行ってみると、ひとりの女性がいた。私は彼女から、ここで起きた不思議な出来事について聞くことができた。

1976年のことだ。エステルという信心深い女性が、ペルヴォアザンにつくられていたルルドの洞窟で、日々祈りを捧げていた。エステルは33歳で、肺病を患っていた。

病状はしだいに悪化し、医者に余命の宣告をされた。しかし、そのとき聖母が彼女の前に出現し、「勇気をもつ



↑聖女ベルナデッタのもとに現れた、ルルドの聖母。



「耐え、祈りなさい」と告げた。その5日後、エステルの病気はすっかり治ってしまい、86歳で亡くなるまで元気に過ごしたという。

この話を聞き終えると、今度は老婦人が現れた。そして、マルタ・ロバンという聖女のところに行くよう、私にすすめた。聖女マルタは、週に1回、聖体（キリストの体を表す小さなパン）をいただくだけで50年近く生きていた奇跡の人だという。

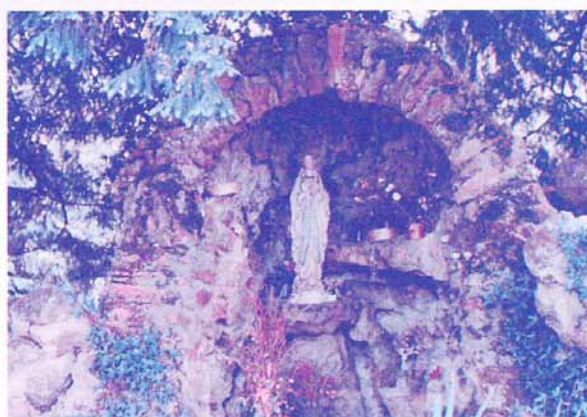
場所は、南フランスのシャトヌフ・ド・ガロール村とのこと。私はそこに行くことにした。

さらに老婦人は「メジュゴリエに行かないですか」と、私に聞いてきた。メジュゴリエは、ユーゴスラビア（当時）にあり、そこも聖母の出現地で、聖地だという。しかし、このときユーゴスラビアは内戦状態だった。そこで、私はその名前を記憶するにとどめた。

その後、次の目的地に移動しようとしたが、祝日の関係でバスなどの交通機関が止まっていた。すると、修道院の女性が、隣の駅まで車で送ってくれるという。その女性はここ半年ほど体のぐあいが悪く、車の運転はしていなかったそうだ。「でも、あなたと会った日によくならはじめて、今日は車の運転もできるようになりました。あなたの旅は、神様に導かれていよう



↑今も美しい姿を保つ聖女ベルナデッタの遺体。



↑ベルヴォアザンにつくられたルルドの洞窟。



↑「不思議のメダイの聖母の聖堂」で、人々が静かに祈りを捧げている。

ですね」といった。私は、今回の旅が、いっそう不思議なものに感じられてきた。

聖母がつくるように命じた「不思議のメダイ」

聖女マルタ・ロバンがいたシャトヌフ・ド・ガロール村に向かう前に、聖母出現の地であるパリのリュ・ドゥ・バックにある「不思議のメダイの聖母の聖堂」を訪れた。ここでは、聖母のお告げによって「不思議のメダイ」がつくられている。

この地に聖母が出現したのは、1830年11月27日のことだ。リュ・ドゥ・バックのチャベルで祈るカタリナ・ラブレの前に聖母が現れ、「このよう

なメダイをつくりなさい。信心深い心でそれを身につける人は、大いなる恩寵を受けるでしょう」と伝え、メダイのビジョンを見せた。

こうしてつくられたメダイはまたたく間に広がり、それを通して人々の回心や守護、病気の癒しなど、多くの恩寵が与えられた。パリの大司教がこの驚くべき出来事に対して公式に調査を命じたが、結論は「聖母出現と、さまざまな奇跡は事実である」というものだった。

このチャベルでミサにあずかった後、シャトヌフに向かった。

シャトヌフには、聖女マルタが1981年に亡くなるまでの約50年間を過ごした家が残されている。聖体以外は

何も食べず、水も飲まず、眠ることもなく過ごした部屋は、当時のままに保存されていた。

彼女はこの部屋でイエスや聖母の出現を受け、その命に従って「愛と光の家」という組織をつくった。今や「愛と光の家」は世界中に広がり、現在64か所に拠点があるという。

私は、マルタが受けていた限りない恩寵を思いながら、その部屋で黙想のひとつを過ごした。

ルルドでモニクさんに出会ってから、巡礼の流れが大きく変わっていった。まるで何ものかの見えない手に導かれているような思いをいだきながら、フランスでの巡礼を無事に終え、次の巡礼地イタリアへと向かった。

ファティマからメジゴリエへ

ファティマに始まり ファティマに終わった旅

イタリアでは、聖骸布のあるトリノ大聖堂や、12使徒のリーダーで、初代教皇でもある聖ペテロの墓所跡に建てられたサン・ピエトロ大聖堂などを訪れた。

つづいてエジプトに向かい、予定通りシナイ山に登った後、ギザの大ピラミッドの玄室で祈りを捧げ、今回の旅の最後の目的地となる、エジプトの聖ファティマ教会を目指した。

実は当初は、大ピラミッドを訪れて旅を終えようと考えていた。

しかし、旅の途中で、ルシアさんがいるコインブラの修道院を訪ねたり、ルルドで「ファティマの奇跡だ」という叫び声を聞いたりするうちに、以前本で読んだ「エジプトのカイロにある、ファティマの聖母に捧げられた教会」のことを思いだし、それをひと目見たいという思いが湧いてきたのだ。

聖ファティマ教会に着くと、神父に今回の旅の流れを話した。

すると神父は、「あなたもファティマに行ったのですか。私もそのとき、

そこにいましたよ」といった。私は驚き、「ええっ!」と思わず大声を出してしまった。

5月13日にポルトガルのファティマで行われた祭典の会場にいたふたりの人間が、その2か月後、エジプトの聖ファティマ教会で偶然に出会い、こうして話をしているのだ。驚かすにはいられなかった。

旅立つ前から何となく不思議な導きを感じていたが、ポルトガルのファティマからエジプトの聖ファティマ教会

にいたる2か月の旅は、一本の線で結ばれていたのだ。私はこのとき、そう確信した。

神父は、エジプトの聖ファティマ教会が、1951年から2年がかりで建てられたことや、この教会にあるマリア像が、当時の教皇ピオ12世から送られた由緒あるものだということなどを教えてくれた。

神父によると、このマリア像を通して、数えきれないほどの奇跡が起きたそう。たとえば、癌の子供がこのマリア像の前でひと晩過ごしたところ、翌朝には治っていたという。

そんな奇跡などについて話しながら、神父は私をふたたびマリア像のもとに導いた。像のすぐ横には、A4判サイズほどの「ファティマの聖母」の写真が飾られていた。それを指し示しながら、神父はいった。

「これは、ファティマで聖母を見たシスター・ルシアが、この教会のために送ってくれた写真です」

私は、旅の最後の最後に、ふたたびルシアさんの名前を聞くことになって、心の底から驚いた。今回の旅で最初に訪れる予定だったファティマに着く前、

間違えてコインブラまで行き、ルシアさんのいる修道院を訪ねたのが、はからずも旅の始まりとなった。そして、旅の最後に訪れたカイロの聖ファティマ教会で、43年前にルシアさんから送られてきたというファティマの聖母の写真に出会ったのだ。

ポルトガルのコインブラから、エジプトのカイロへの旅。それは、ルシアさんがいる修道院に始まり、ルシアさんから送られた聖母の写真との出会いで終わる旅となった。これですべての行程が終了したのだと、私は不思議な感慨に満たされた。

ファティマの聖母の預言と メジゴリエの10の秘密

帰国後、私は一連の不思議な出来事をふり返り、その背後に隠された意味について、考えざるを得なくなった。ファティマに始まり、ファティマで終わった今回の旅には、いったいどういう意味があるのだろうか?

そんなことを思いながら書店に出かけると、シスター・ルシアの手記があった。私はさっそく読んでみた。
ファティマの聖母は、人々が「祈り」



↑トリノ大聖堂にある聖骸布のレプリカ。



↑シスター・ルシアから、カイロの聖ファティマ教会に送られたファティマの聖母の写真。

↓カイロにある聖ファティマ教会は、ファティマの聖母に捧げられた。



↑サン・ピエトロ大聖堂。12使徒のリーダーである聖ペテロの墓所跡に建てられた。

➡モーセが十戒を授かったという聖地シナイ山。



「回心し」「償いをする」よう、切々と諭していた。また、将来起こる出来事に関する「3つの秘密の預言」も伝えられていた。第1の秘密は、3人の牧童たちの運命を告げるものだった。そして第2の秘密は、第1次

第2次世界大戦勃発の可能性を知らせるものだった。

ふたつの預言はいずれも成就していた。だが、聖母が伝えられた3つの秘密のうち、明かされたのはふたつで、「第3の秘密」は、この時点ではまだ秘密のままだった。

その本を読んだ後、今度はメジュゴリエに関する本を見つけた。メジュゴリエは、フランスのベルヴォアザンで出会った老婦人に行くようすすめられた場所だ。興味をそられて読むうち、私は大きな驚きを覚えた。メジュゴリエでは、今も聖母が出現し、幻視者がメッセージを受けている。そのなかには「10の秘密」があるというのだ。

メジュゴリエの名を教えられたときは、かつて聖母が出現した場所だろうと思ひ、急いで行く必要はないと判断したのだ。だが、聖母の出現は、まさに今、起きているというのだ。

現在も4人の幻視者たちが、毎日、聖母の姿を見て会話を交わしており、毎月25日には、マリアという幻視者を通して、世界に対するメッセージが伝えられているという。

私はどうしても、メジュゴリエでの聖母の出現を確かめなければならぬと思った。これまでの流れからすれば、避けて通れないことは明白だった。私はメジュゴリエに旅立つことにした。

メジユゴリエの聖母と幻視者たち

6人の子供たちの前に
聖母が毎日出現する

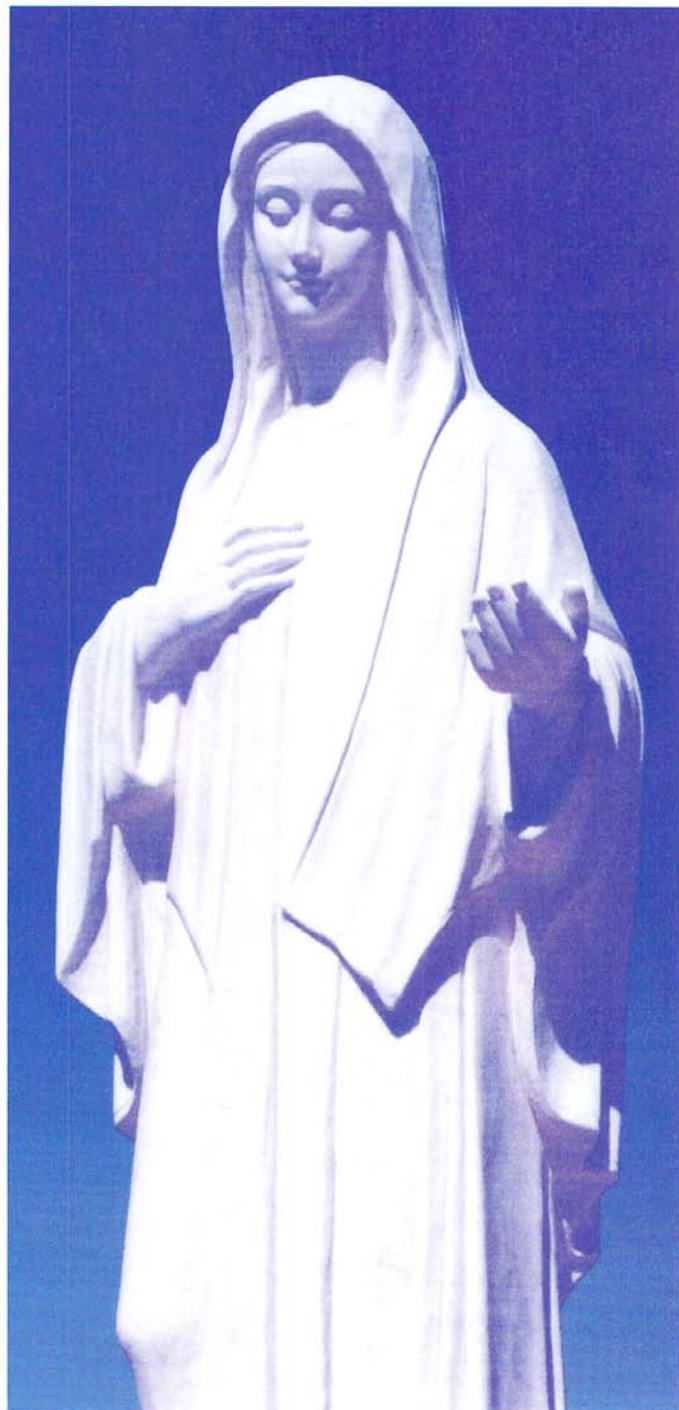
メジユゴリエにおける最初の聖母出現は、1981年6月24日の夕方に起きた。イワンカ(当時15歳)とミリアナ(16歳)というふたりの少女が散歩をしているときのこと。イワンカがなげなく丘のほうを見上げると、そこに光り輝くものが見えた。だが、気にとめずその場を離れた。

ところが、その後ほかの友だちも一緒に同じ場所に来たとき、ふたたび光り輝く女性の姿が見えた。女性は子供たちに、近くに来るよう手招きした。彼らは怖くなり、家に逃げ帰った。

翌6月25日、イワンカ、ミリアナ、ヴィツカ(16歳)、イワン(16歳)の4人は、野良仕事を早目に切りあげて、丘に行ってみることにした。

前日と同じ場所に着いたとき、女性の姿が見えた。彼らは、女性の顔まで、はっきりと見ることができた。

子供たちのひとりヴィツカは、友だちのマリア(16歳)を呼びにいき、ヤコブ(10歳)も一緒に連れてきた。すると、後から来たふたりにも、女性の



姿が見えた。

6人の子供たちが見つめていると、女性は丘の上に来るよう手招きした。子どもたちは女性のところまで走っていき、ひざまずいて祈った。

祈りを終えると、イワンカが女性に話しかけた。しばらく会話が続きした後、女性は子供たちに「神の平和に行きなさい」と声をかけて、消えていった。

この日は、「幻」の噂を確かめるため、十数人が子供たちについてきていた。

彼らは子供たちの様子を見て、自分たちには見えないが、何かが起きていることを確信した。

6人の子供たちは、それから毎日、聖母の姿を見、声を聞くことになった。その後、聖母は家の中や教会など、さまざまな場所でも出現した。

だが、出現が始まって約1年半後に、ミリアナへの毎日の出現がとまり、イワンカも1985年5月を最後に、毎日見ることはなくなった。しかし、彼

女たちは今も、年に1度の出現を受けている。

**聖母マリアの願いは
世界に平和が訪れること**

私はメジユゴリエに40日間滞在して、幻視者たちの話を聞いたり、さまざまな確認をした結果、聖母マリアの出現は本当に起きていると確信した。

聖母の出現を毎日受けている幻視者のなかでも、マリアは特別の役割を担

↑6人の子供たちの前に出現したメジユゴリエの聖母。



っている。聖母が彼女を通して、世界に向けて「公式のメッセージ」を伝えているからだ。

1987年1月から、毎月25日に、マリアを通して聖母から「マンズリー・メッセージ」が伝えられ、それは現在にいたるまで途切れることなく続いている。

6人の幻視者のうち、イタリア人の男性と結婚したマリアはイタリアに住み、アメリカ人女性と結婚したイワンはアメリカとメジュゴリエを行き来しているが、他の4人はメジュゴリエで暮らしている。

また、イワンカ以外の5人は、巡礼者たちに聖母からのメッセージを伝え、一緒に祈る日々を過ごしている。彼らは世界各地に向いて、祈りの会に参



↑最初に聖母が出現した丘は「ご出現の丘」と呼ばれる。メジュゴリエの3大聖地のひとつだ。

加することもある。

では、何のために聖母はメジュゴリエで出現し、世界に向けてどんなメッセージを伝えているのか？

幻視者たちが語る聖母マリアからの主なメッセージは、「平和」「信仰」「回心」「祈り」「償い」「断食」である。なかでも最も重要なキーワードは「平和」だ。それは、聖母が自分の名前を「平和の女王」と告げたことにも表れている。

聖母は、出現して3日めにその理由を尋ねられたとき、「すべてが平和のうちにある、調和がもたらされるため」と答え、幻視者マリアに「平和、平和、ただ平和だけです。平和が神と人間、そして人間同士の間になければなりません。神の平和に行きなさい」と語っ



↑幻視者のひとりミリアナ（右）。巡礼者たちに聖母からのメッセージを伝えている。

↓ミリアナの話聞くために、ミリアナの自宅前に集まった巡礼者たち。



た。つまり、聖母マリアの最大の願いは、世界に平和が訪れることなのだ。

やがて10の秘密が明かされるときがくる

では、メジュゴリエでの出現は、いつまで続くのだろうか？ これまでの経緯から、ひとつの答えが得られる。

ミリアナとイワンカは毎日の出現を受けなくなったが、このふたりに共通していることは、「10番めの秘密」を告げられた後、毎日の出現がなくなっただけのことだ。したがって、この10の秘密が、聖母の出現の継続に大きく関係していると考えられる。

ミリアナ自身も、「10番めの秘密を告げられたときに、その幻視者に対する毎日の出現がとまると思います」と

証明する出来事が起こるのだという。さらにミリアナは、8番めの秘密以降は、人類にとってかなり厳しいものだと述べている。

私たちは、それにどう対処していけばいいのだろうか？

ミリアナはいう。「時がある間に回心しなさい」「神と信仰を捨ててはいけません」「霊的に準備して、あわてふためかないようにし、それぞれの魂を調和させなさい」と。

この言葉からすると、聖母の出現が続き、秘密が隠されている期間は、人類に与えられている回心のチャンスだといえるのかもしれない。それは、「神と信仰」を取り戻し、「回心と祈り」の道に進むために、私たちに与えられた時間なのではないだろうか。

語っている。

ホルトガルのファティマでは3つの秘密が告げられたが、メジュゴリエでは10の秘密が伝えられている。そして、すべての幻視者に10番めの秘密が伝えられたとき、聖母の毎日の出現が終わわり、その秘密が明かされはじめ、それが実現していくのだという。

今、私たちはその秘密の内容について、まったく知ることができない。ミリアナによれば、「聖母がここにおられる」ということを

ふたたび聖地メジゴリエへ

幻視者マリアの自宅で
聖母出現に立ち会う！

初めてのメジゴリエ巡礼から半年が過ぎた1997年12月18日。私はふたたびメジゴリエに旅立った。メジゴリエの出来事について再確認するとともに、幻視者マリアにインタビューをするという目的があった。

マリアに会えたのは、12月26日のことだった。

まず、聖母を初めて見たときのことをマリアに尋ねた。すると彼女は、私を現場まで連れていき、どのような出来事があったのか説明し、そのほかの質問にも詳しく答えてくれた。

やがて5時が近づいたころ、信者が何人も訪れてきた。これから「ロザリ

オの祈り」が始まるという。

聖母出現の時間はだいたい決まっています。通常は5時半から6時半ごろの間だ。場所は必ずしも一定ではなく、幻視者がいるところに出現する。

この時間にお祈りを始めるということだ。とは、ここで出現があるということだ。思わず「写真を撮っていいですか？」と尋ねると、快く了承してくれた。

マリアの自宅の2階へ案内されると、そこは礼拝堂になっていて、聖母像もあった。すでに20人ほどの人が集まっており、なかには司祭や修道士、修道女の姿もあった。マリアは私を祭壇の奥に座らせ、彼女が聖母の出現を受ける様子を、真正面から間近で見ることができるようしてくれた。5時半ごろ、マリアは祭壇の近くに進み出て、祈りはじめた。参加者もそれに合わせて祈った。

彼女の様子は自然で、先ほど一緒に話をしていたときとまったく同じ雰囲気だ。

私は彼女が出現を受ける様子を見のがすまいと、真正面から見つめつづけた。すると突然、彼女の祈りの声がとまった。と同時に、彼女はその視線をあげ、大きく目を見開いて何かを見つめた。聖母が出現したのだ。参加者も祈りをやめた。部屋の中は、一瞬にして静けさに支配された。

私は彼女の表情を食いいるように見つめた。視線はまったく動かず、ただ一点を見つめている。そして、ほとんど瞬きをしない。まわりのことはいっさい目に入っていないようだ。すると、彼女の唇が動いた。声は聞こえないが、人と話しているようだ。そんな動きが、出現の間に3回あった。

3〜4分たったころ、彼女は力が抜けたように視線を落とす。そして十字を切ると、ふたたび祈りはじめた。聖母が帰ったのだ。彼女は元の表情に戻り、部屋の空気は和らいだ。

メジゴリエの聖母は
ファティマの聖母だった

私は3日間つづけてマリアを訪ね、話を聞いたが、体験したことなどを率直に、明確に語ってくれた。また聖母

↑ティハリナーの教会にある聖母像。





の出現に立ち
あい、その様
子を間近で見
て、「彼女は確
かに視してい
る」と再確認
することがで
きた。

インタビュ
ーの最後に、
私にとって最
も大切な質問
をした。「フ

アティマについて、聖母に何か尋ねた
ことはありますか?」と。

マリアは一瞬考えた後、答えた。

「聖母は1回だけ、ファティマについ
て話されました。それはマンスリー・
メッセージのなかにあります」

英語に翻訳されたメッセージ集をマ
リアに渡すと、1991年8月25日の
メッセージを指さした。そこには、次
の言葉があった。

「私がファティマで始めた秘密が、実
現するかもしれないということに気づ
いてほしいのです。……私がここに來
ている重要性と状況の厳しさを理解し
てくれるよう呼びかけます。……だか
ら、私が始めたすべてのことが、完全
に実現するよう祈りましょう」

確かに聖母からのメッセージに「フ



↑(上) 幻視者マリアの自宅の2階。礼拝堂になっており、ここに聖母が出現する。(下) 聖母の出現を受け、聖母を見つめる幻視者マリア。

アティマ」が出ていた。しかも「私が
ファティマで始めた秘密」とある。と
いうことは、メジュゴリエで出現して
いる聖母は、ファティマで出現した聖
母だということではないか。私はとに
かく驚き、つい大声をあげてしまった。
ファティマ・ルルド・カイロを訪れ

る巡礼の旅から、2年が経過していた。
あのときは、まずファティマの幻視
者ルシアさんがいるコインブラの修道
院で祈りを捧げ、最後にカイロでルシ
アさん本人から送られてきたファティ
マの聖母の写真に出会った。その旅の
途中で、メジュゴリエに行くことをす
められたことがきっかけとなって、
今この地で幻視者マリアの話聞いて
いるのだ。

その結果、知らされたことは、メジ



↑メジュゴリエの3大聖地のひとつ「十字架の丘」で祈る人々。この場所も聖母の出現地である。

ユゴリエでの聖母出現は、ファティマ
での出現の続きであるということなの
であった。つまり、私の長い旅は、1
917年のファティマから現在のメジ
ュゴリエにいたる時の流れのなかで、
聖母が進めている計画について学ぶた
めのものだったのだ。

聖母マリアが進める 人類救済のための計画

それでは、聖母の計画とは、いった
いどのようなものだろうか?

それは、聖母からのメッセージのな
かに、明確に示されている。

「あなたたちをもっと神様に近づけた
いと思っています」

「祈りを通して神様に近づき、心から
平和に過ごして下さい」



↑メジュゴリエの聖ヤコブ教会。たくさんの人々がミサにあずかる。

聖母のメッセージには、すべての
人々が神に近づき、平和に過ごしてほ
しいという強い願いが込められている。
そして、その道をたどるよう、くり返
し呼びかけている。つまり、聖母の計
画とは「平和の実現」であり、人々が
「神の平和に行く」ことなのだ。

現在、メジュゴリエという東欧の小
さな村で起きている「聖母マリアの出
現」という出来事は、人類が神に心を
向け、平和を実現していくために与え
られた、非常に重要な機会なのである。

「見えない世界」から伝えられている
「平和のメッセージ」を、私たちはど
う受けとめればいいのか? 平
和を実現するのか、このままつき進む
のか? その答えは、私たちひ

とひとりひとりに委ねられている。

